

会 議 録

1 会議名

令和5年度第2回名立区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

1 報告事項（公開）

（1）中山間地域農業「将来ビジョン」の完成と実践に向けた取組方針について

2 協議事項（公開）

（1）ろばた館利活用検討会について

3 その他事項（公開）

3 開催日時

令和5年5月30日（火）午後4時から午後5時25分まで

4 開催場所

名立区総合事務所 第2会議室

5 傍聴人の数

1名

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：石井浩順、小林晴子、高宮秀博、竹内隆、中野祐、二宮香里、畑芳雄
- ・ 事 務 局：桐木所長、本間次長（総務・地域振興グループ長兼務）、沢田市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長兼務）、石崎地域振興班長
- ・ 農村振興課：佐藤課長、横尾係長、松井主任

8 発言の内容

【石崎班長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 本日は原田会長が欠席のため、高宮副会長に議長を依頼する。

【高宮副会長】

- ・挨拶
- ・桐木所長に挨拶を求める。

【桐木所長】

- ・挨拶

【高宮副会長】

- ・事務局に資料の確認と会議録の確認者の発表を求める。

【石崎班長】

- ・会議録の確認者：中野委員、二宮委員
- ・配布した資料の確認

【高宮副会長】

- ・報告事項（1）中山間地域農業「将来ビジョン」の完成と実践に向けた取組方針について、農村振興課に説明を求める。

【農村振興課 佐藤課長】

- ・挨拶

【農村振興課 松井主任】

- ・資料No.1について説明

【高宮副会長】

- ・今ほど説明を受けたが、中山間地域の農業では担い手や後継者がいないということが大変なところだと思う。
- ・皆さんの方で、ご意見ご質問等はあるか。

【中野委員】

- ・この計画は、名立区の関係団体がどの程度関与して作成したものなのか。

【農村振興課 松井主任】

- ・将来ビジョンは「みらい農業づくり会議」の中で作成した。この会議には名立区内の農業者の方や加工グループの方、中山間地域等直接支払制度に基づく集落協定の構成員に参加いただき議論した。その議論の結果を将来ビジョンという形でまとめた。
- ・また、資料にも記載してあるが、みらい農業づくり会議の参加者数は、名立区では

毎回20人から30人前後であった。

- ・名立区においては、会議を4回、グループワークを2回から4回行い、最後の4回目の会議で将来ビジョンをまとめ、出席者の皆さんから同意をいただいている。

【二宮委員】

- ・名立区ではすでに耕作放棄されている田んぼがどんどん増えてきている。
- ・理由としては、高齢化により田んぼをやめてしまったり、施設に入所したため農作業ができないなど様々であるが、そういった方の田んぼも今回策定した将来ビジョンの対象になるのか。
- ・例えば、誰か別の方に引継ぎ、その方が田んぼを維持管理するなどの方法が考えられると思う。

【農村振興課 松井主任】

- ・今回の将来ビジョンとは別になるが、農業をリタイアする方が農地を担い手の方に預けるとなると、人・農地プランなどを発展させた地域計画などがあり、その中で対応できるかと思う。
- ・また、将来ビジョンは、荒廃農地の有効活用も視野に入っており、土地利用の明確化や農地条件の改善といったテーマの中で話合いが行われた。
- ・話合いでは、現在耕作されている場所だけではなく、その周辺も維持していかなければ、荒れたところに鳥獣がどんどん入ってきてしまうことが懸念されるので、広域で管理する必要があるという議論があった。
- ・国でも、耕作されている周辺の環境を整備するための交付金ができているので、そういったものの有効活用も名立区のビジョンの中に入っていて、今後具体的に進めていきたいと考えている。なお、荒廃農地の関連の事業は資料の「土地利用」の項目に記載してあるので、そちらでご確認いただきたい。

【二宮委員】

- ・耕作できなくなってリタイアした方とどのように交渉していくのかという疑問がある。また、名立区では鳥獣被害が酷く、電気柵を設置していない田んぼはイノシシの遊び場のようになっている。
- ・以前はもっと山の方にも田んぼがあったが、棚田だとひとつひとつに電気柵を設置するのが難しく、ほとんどがイノシシの被害にあってしまい、周辺環境を整備する

ような状況ではなくなってしまうのが現状だと思う。

- ・用水路に関しても、私の家の近くには丸田用水があり、古い歴史のある用水路だが、これもイノシシの被害に何度もあい、対処できないような状況である。
- ・将来ビジョンの中で「整備します」と言っているが、何度整備してもすぐに荒らされてしまうのが現実であり、「中山間地域の農業を守ります」と言っただけのことはありがたいが、まずは鳥獣被害を何とかしないと、先に進まないと思う。そのあたりをどのように考えているのかを聞きたい。

【農村振興課 佐藤課長】

- ・名立区ではクマの被害もあるが、上越市全体ではイノシシによる農作物等の被害が一番多い。
- ・当課でも大変な状況だと考えていて、電気柵の設置や更新に対して補助金を交付するなどして対応している。
- ・その他に、猟友会の皆さんからもご協力いただき、くくり罠や箱罠を設置したりして、年間約500頭のイノシシを捕獲しているが、まだまだイノシシの数は多い。
- ・このような状況の中、農業者だけでなく猟友会の高齢化も進んでいて、後継者確保の策を講じつつ、ICTを活用したスマート捕獲も進めている。
- ・そうは言っても、イノシシの被害は相当なもので、それを一番感じているのは農家の皆さんであると思う。行政としても何とか捕獲をしながら被害を減らしていきたいと考えている。
- ・また、このビジョンを進めることで、全ての農地が適切な状態で維持されるかといわれると、担い手の確保も含め難しい部分もあると思っている。
- ・農家の皆さんと、「ここは田んぼとして残すところ」、「ここはソバ作りを進めていこう」といったことを協議しながら土地の利用を検討していきたいというのがビジョンの中の取り組みの一つとして入っている。
- ・このビジョンは行政だけで考えた訳ではなく、農業に携わる皆さんと協議しながら策定したもので、策定して終わりではなく、これからスタートしていくものなので、引き続き農業関係者の皆さんと話をしながら進めていきたいと考えている。

【二宮委員】

- ・資料中のソバの生産拡大に関して、中心的組織に宇山転作組合と折居ソバ生産組合

とあるが、大菅でも以前からソバの栽培を行っている。今回の取組に大菅の方たちは関与していないのか。また、ソバを生産した際の利益率はどのくらいになるのか。

【農村振興課 佐藤課長】

- ・今は利益率を調べる段階ではなく、また「利益率が高いからやりましょう」という話ではない。
- ・会議の中で地域の皆さんから「ソバの生産を進めていきたい」という話があったので、こちらの資料のようにまとめたものである。
- ・先ほどの話と重複するが、全てのプランが上手くいくとは限らないと思っている。やってみないと成功するか分からないが、実施に必要な経費を市で補助金として交付するので、チャレンジしてもらいたいという趣旨である。このことから、ご質問のあった利益率は算出していない。
- ・また、大菅の話に関しては、今回のビジョンを作り上げる中で宇山転作組合と折居ソバ生産組合の話が出たので、中心的組織として記載させていただいたが、今ほど大菅のお話を伺ったので、名立区農業振興協議会の方へ話を繋げさせていただく。

【石井委員】

- ・名立区には用水がたくさんあるが、ほとんど機能していない用水がいくつかある。
- ・用水組合自体が弱体化し、組織がなくなっている中で、用水を今後どのように管理していくかについては資料に記載がないようだが、どのように考えているのかを知りたい。

【農村振興課 佐藤課長】

- ・ワークショップの中で、様々な農業者の方へ声かけをしているが、該当する地域の方は出席されていなかった可能性がある。
- ・今後、名立区農業振興協議会でロードマップの管理をしていくので、情報共有を図り、今後考えていきたいと思う。

【中野委員】

- ・資料の1ページ目の将来ビジョンの取組内容のところに「キャッチフレーズ」、「担い手・後継者の確保」等の項目がいろいろとある。
- ・名立区の「作物選定」の項目を見ると、梅の新植、ソバの生産拡大とあるが、米に関する記述がない。

- ・私の地区には歴史的にも有名な用水路があるが、担い手不足が深刻で、米が作れない田んぼも増えている。このような田んぼは作物転換ということで米からソバの栽培に替えたりしている。
- ・補助金が交付されるということもあり、かなりの田んぼがソバ栽培に転換している。一度ソバを栽培してしまうと、再び米を栽培することは難しい。
- ・歴史的に有名な用水があるにもかかわらず、その水を使っている田んぼで将来的に米作りができなくなってしまう心配がある。

【農村振興課 佐藤課長】

- ・資料中の「作物選定」の項目は、米以外の作物をどのように選定していくかという内容になっているため、ここでは米に関する記述はない。
- ・日本全体でみると年間で10万トンほど、米の消費量は減っている。このような状況で、米の生産量を調整していかないと価格の維持が難しいため、国や県を通じて生産量の目安が示されている。
- ・そうすると、米が作れない田んぼが出てくるので、そこをどう活用して所得を維持していくかという話の中で、ソバや梅の栽培という案が出てきた。
- ・用水に関しては、先ほど石井委員からも質問があったが、今回の会議の中では課題として挙がりにくかったのかもしれないので、今後、総合事務所を通じて情報共有を図りたい。
- ・また、作物転換で5年という話が出てきたが、国の政策で5年間の中で、どこかで1回水稻に戻さないと国の交付金が出ないという事情がある。水稻に戻さずに他の作物を5年間以上作るなら、手切れ金のような形で10アールあたり10数万円というお金が出るという国の仕組みがあるので、おそらくその地域の方はソバを作り続けておられるのだと思う。

【中野委員】

- ・名立区では梅の栽培を昔から行っているが、米以外の作物で収益が上がるものがあるのか。

【農村振興課 佐藤課長】

- ・梅に関して営農といった観点では把握できていない部分も多いが、地域の皆さんとのグループワークの中で、梅を新たに栽培したいという方もおられたし、名立の梅

は農薬を減らした特別栽培を行っていて需要がある。

【高宮副会長】

- ・他に質問がないようなので、報告事項はこれで終了する。
- ・次に次第3、協議事項（1）ろばた館利活用検討会について、事務局に説明を求める。

【石崎班長】

- ・資料No.2に基づき説明

【高宮副会長】

- ・5月22日に、原田会長とともにろばた館利活用検討会に出席した。
- ・温浴施設は廃止の方向性が示されているので、廃止後にどのように利活用していくかを考えたらよいという意見や、温浴がなくなるのは寂しいが、避難所や地域の憩いの場としてろばた館は必要だといった意見もあった。
- ・このような意見を踏まえて、ろばた館をこれからどうしていくかについて、皆さんと意見交換をしたいと思う。

【二宮委員】

- ・温浴機能と食堂機能が廃止になった後、貸館等で利活用した場合の経費はどの程度を見込んでいるのか。

【農村振興課 佐藤課長】

- ・施設をどの程度利用するかによって変わってくると思う。
- ・例えば、現在のろばた館のように管理人が常時いる場合と、円田荘のように施錠していて利用時のみ開錠する場合とでは経費は変わってくる。
- ・まずは地域の皆さんにどのように活用していただくのかの意見をいただいてから経費の試算を行いたいと考えているため、今の段階で試算はしていない。

【二宮委員】

- ・私は、ろばた館も円田荘のように基本的には施錠されていて、必要な場合のみ開錠して利用することになっておりましたが、そうではないということか。

【農村振興課 佐藤課長】

- ・円田荘のような鍵管理だと、利用頻度が高い場合の対応に限界があり、管理人に常駐していただいた方が良い場合もある。

- ・例えば、敬老会や町内の集会等でしか使わず、利用頻度が低ければ鍵管理になると思うが、検討の結果、頻繁な利用が見込めるようであれば、管理会社等に委託して常駐していただき、清掃等も頻繁に行った方がよいということになる可能性も考えられるので、ろばた館をどのように利活用したいかがまとまらないことには、施設の維持管理費等の積算は難しいと思っている。

【石井委員】

- ・資料にもあるが、ろばた館の建設当時は人口減少や将来の維持管理までは想定していなかった。
- ・今、このような状況の中で、上名立地区だけでは使いきれないので、南部地区のみんなでろばた館を使っていくという意識が大切だと思う。
- ・例えば、先ほど中山間地域農業の将来ビジョンの話もあったが、ろばた館の周りの田んぼも後継者不足等により維持管理が難しくなっていて、近い将来ろばた館の周りは雑草だらけで荒れてしまう。
- ・農業関係の会議をろばた館で行い、実際に周りの環境を見てもらうのも一つの方法だと思う。

【竹内委員】

- ・石井委員がおっしゃるとおり、ろばた館は周辺に住む人だけでなく、名立区全体の財産だという意識が必要であり、区全体で利用していかなければいけないと思う。
- ・ただ、温浴機能がなくなるということは、ろばた館であってろばた館でなくなってしまうというイメージがある。
- ・ろばた館の建物だけが残ってしまうことにならないためにも、利用促進の方法を考えなければならない。
- ・利活用を進めるためにはある程度の初期投資も必要だろうし、「使ってもらおう」ということを積極的に考えなければいけないと思う。

【小林委員】

- ・私も区全体で考えていくことが大切だと思う。
- ・理想があってもそれを実現するには限界があり難しいとは思いますが、私たちの世代だけではなく、若い世代にも協力してもらいたい。

【中野委員】

- ・ろばた館のボイラーはどのような状態なのか。

【農村振興課 佐藤課長】

- ・ボイラーの入替えは過去に見積りを取ったときは2千万円ほどだったが、昨年改めて見積りを取ったところ、約3千万円になった。
- ・これまで、ろばた館のボイラーは何度も修繕をしていて、今年度も大きな修繕の予定がある。温浴機能が廃止となる令和7年3月まで温浴機能を維持できるよう、大切に使用していきたいと考えている。

【高宮副会長】

- ・今の話は温浴のボイラーだと思う。空調も調子がよくないと聞いているが、そちらはどのくらい費用がかかるのか。

【農村振興課 佐藤課長】

- ・空調のデータを持っていないので、後日回答する。

【畑委員】

- ・皆さんが言われるように、ろばた館の周辺の集落だけでなく、名立区全体で考えていかなければいけないと思っている。

【二宮委員】

- ・ろばた館の維持管理には年間2千万円ほどかかっている、今の話ではボイラーを入れ替えた場合は3千万円かかるということである。繰り返しになって申し訳ないが、温浴機能と食堂機能を廃止し、利活用した場合にどの程度の経費がかかるのか試算できないか。

【沢田グループ長】

- ・確かに現在は維持管理に年間2千万円ほどかかっている。これには温浴の機械の維持や燃料といったものにかかっている経費も含まれる。
- ・今後、温浴機能と食堂機能が廃止になったとき、2千万円を超えるような経費がかかるとは考えにくい。
- ・今後、皆さんがどのように活用していくかによって、かかる経費は変わってくるので現段階で試算することは難しいことを理解してほしい。
- ・例えば、常駐する人数や清掃する頻度によって、金額は変わってくる。地域の皆さんがどのように施設を活用したいのかがある程度まとまってから、それに必要な経

費を試算したいと思っている。

【桐木所長】

- ・市の方針は、よほどのことがなければ変わらないが、地域の方がろばた館を大切に思っているのと同じで、市にとっても大切な施設である。
- ・農業振興協議会の渡辺会長とよく話をするが、石井委員と同じように熱い思いがあって、将来衰退するであろう農村地域の活性化拠点として、ろばた館を残していかなければならないとおっしゃっていた。
- ・農業振興協議会の山本委員も、ソバは加工したり食品にして提供することで収入になったり、上手くいけば県外から人が集まる可能性もあり夢があると、ろばた館利活用検討会でおっしゃっていた。
- ・私は、農村地域の振興は農林業の振興だと信じている。だから、農村振興課は必死になって、食堂機能は廃止するが食堂の施設の機能は残すという形にしたのだと思っている。
- ・例えば、作物の加工施設として利用したり、その商品を販売するためのイベントを行ったり、その時に地域の皆さんが手伝ってくれて、「ここは名立区にとって大切な施設だ」と言ってくれれば最高だと思っている。
- ・他区でも中山間地域の施設を地域の方が大切にされていて、イベントがあればみんな協力している姿を何度も見ている。名立区でも、そのような活用をしてほしいと思っている。
- ・中には、温浴機能や食堂機能にこだわる方もいて、それも重要な視点かもしれないが、せっかく利活用検討会を立ち上げたのだから、前向きな話をしたいと思っている。

【高宮副会長】

- ・今後も利活用検討会が開催されるので、地域協議会でも前向きな協議をしていきたいと思う。
- ・次に次第4、その他について、事務局に説明を求める。

【石崎班長】

- ・地域自治推進プロジェクトに関するアンケートの依頼
- ・視察研修について、後日アンケートであらためて希望を伺う予定である。

【二宮委員】

- ・民間が設置を予定している風力発電に関して町内会長協議会等で報告があるかもしれないが、地域協議会でも進捗状況を報告してほしい。

【桐木所長】

- ・地権者が多数いて把握しきれない状態のようだ。4月末までに会社として方針を決定するという話だったが、まだ報告がない状況である。

【高宮副会長】

- ・次回の地域協議会の開催予定について、事務局に説明を求める。

【石崎班長】

- ・令和5年度第3回地域協議会の日時：令和5年6月29日（木）

【高宮副会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

名立区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL 025-537-2121（内線 5504）

E-mail: nadachi-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。